

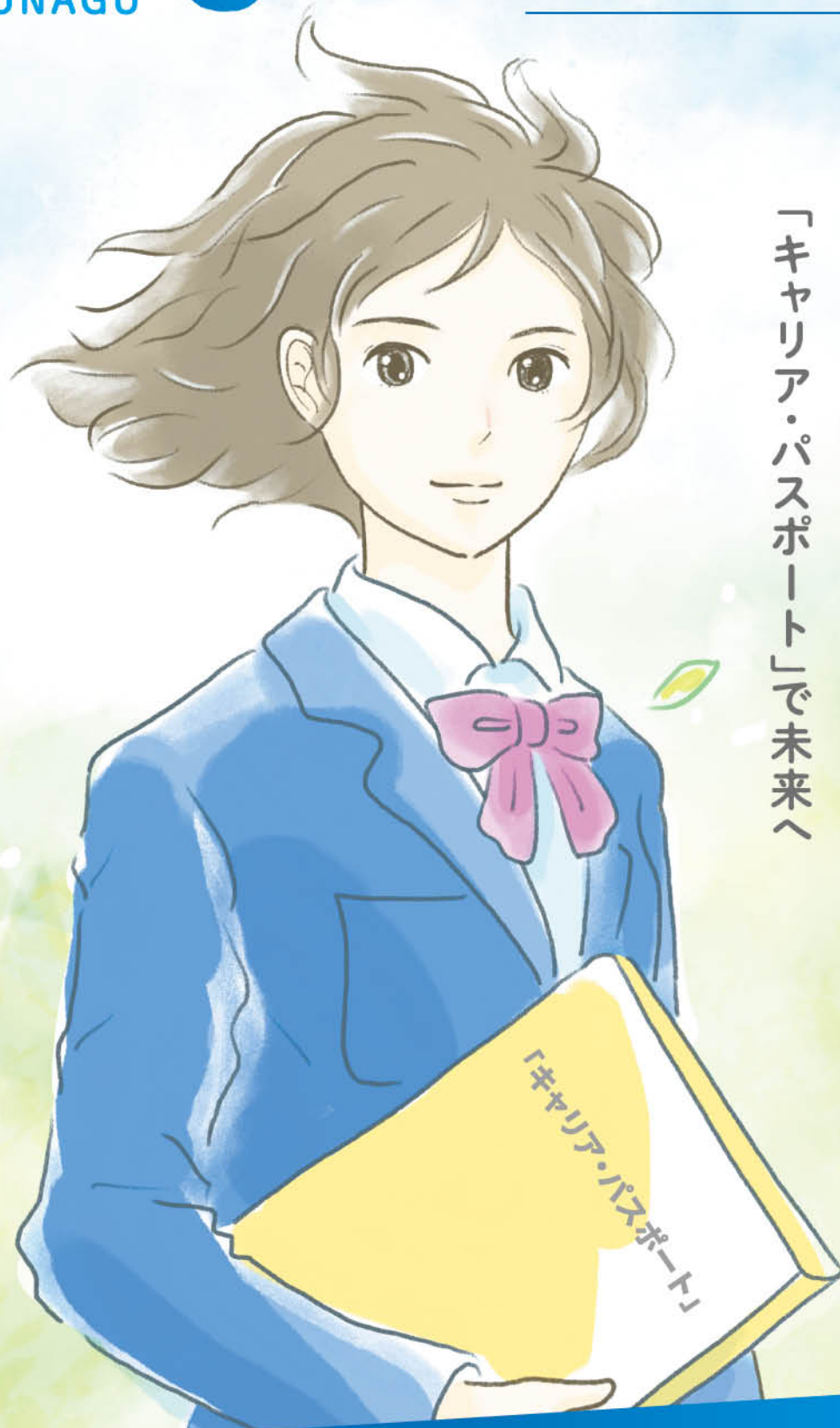
改訂版

学びを
将来や社会に

つなぐ

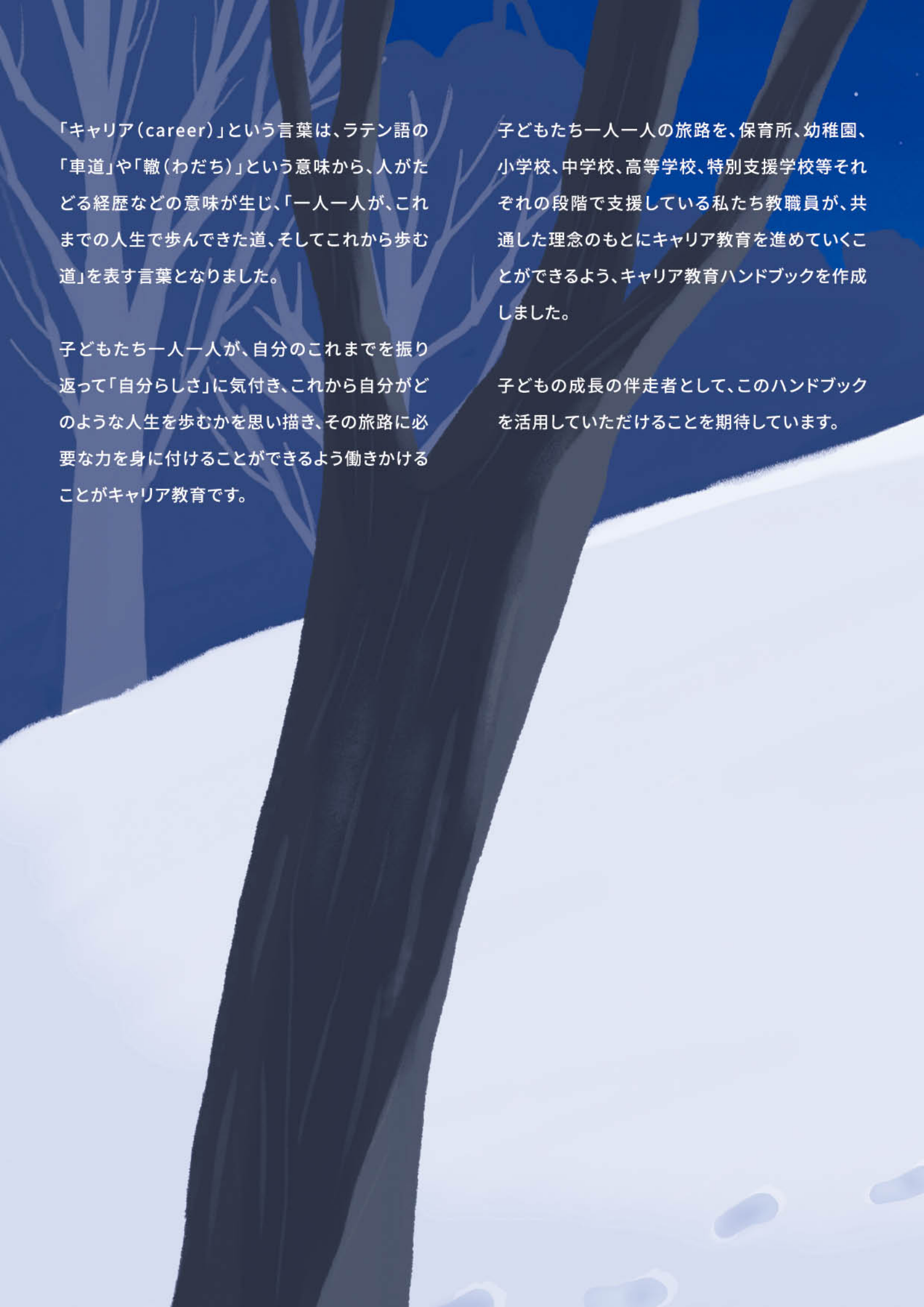
TSUNAGU

キャリア教育ハンドブック



島根で育んだ記憶と記録を
「キャリア・パスポート」で未来へ

島根県教育委員会



「キャリア(career)」という言葉は、ラテン語の「車道」や「轍(わだち)」という意味から、人がたどる経歴などの意味が生じ、「一人一人が、これまでの人生で歩んできた道、そしてこれから歩む道」を表す言葉となりました。

子どもたち一人一人が、自分のこれまでを振り返って「自分らしさ」に気づき、これから自分がどのような人生を歩むかを思い描き、その旅路に必要な力を身に付けることができるよう働きかけることがキャリア教育です。

子どもたち一人一人の旅路を、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等それぞれの段階で支援している私たち教職員が、共通した理念のもとにキャリア教育を進めていくことができるよう、キャリア教育ハンドブックを作成しました。

子どもの成長の伴走者として、このハンドブックを活用していただけることを期待しています。



CONTENTS

- 1 キャリア教育についての共通理解・・・P1
- 2 キャリア教育を進める手順・・・・・・P6
- 3 「キャリア・パスポート」について・・・P13
 - ・小学校事例・・・・・・・・・P15
 - ・中学校事例・・・・・・・・・P16
 - ・高等学校事例・・・・・・・・・P17
 - ・特別支援学校事例・・・・・・・・・P19

キャリア教育が日本の教育界に登場してから今日まで、島根県でも多くの方々の努力で「キャリア教育」という言葉が浸透してきました。一方、キャリア教育は大きな概念であるがゆえに、人によって捉え方にズレがあったり、誤解が生じたりしてきたことも事実です。令和時代の、これからの時代を生き抜く子どもたちのために、まずはキャリア教育について整理し、共通理解を図りましょう。

1 | 学習指導要領が示すキャリア教育の新たな姿

平成29年告示小学校・中学校学習指導要領、平成30年告示高等学校学習指導要領（以下「平成29年版学習指導要領」）において、「キャリア教育」という言葉が初めて学習指導要領の本文に明記されました。キャリア教育について、総則に次のように記載してあります。

児童（生徒）が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、**社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。**

【出典：平成29年告示 小学校学習指導要領 ※（ ）内は中学校・高等学校】

● キャリア教育の目的は、児童生徒が資質・能力を身に付けていくことができるように働きかけることです！

これまでのキャリア教育は「子どもたちに将来の夢を描かせること」や、「職場体験やインターンシップなどの職業に関わる体験的な活動をさせること」といった活動面に力点が置かれすぎていたのではないかと、いった指摘がありました。こうした課題を乗り越え、どんなに社会が変化しようとも、子どもたちが夢を叶えるための力（＝資質・能力）や、社会的にも職業的にも自立して生きていくために必要な力（＝資質・能力）を身に付けていくことができるよう働きかけることが、これから求められるキャリア教育です。

● キャリア教育で育む「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力」とは

キャリア教育ではこれまでも、キャリア教育で育む力として「基礎的・汎用的能力」の育成を目指してきました。この「基礎的・汎用的能力」とは、社会の中で自立的に生きていくための包括的な能力概念であり、これまでも掲げられてきた「生きる力」や、平成29年版学習指導要領における「育成を目指す資質・能力」と矛盾しないことから、今後もキャリア教育で育む資質・能力として「基礎的・汎用的能力」の育成を目指します。

キャリア教育で育成する資質・能力（**基礎的・汎用的能力**）

A. 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができる。他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

B. 自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、自己の肯定的な理解に基づき主体的に行動することができる力。自分を律し、進んで学ぼうとする力。

C. 課題対応能力

様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

D. キャリアプランニング能力

自らが果たすべき様々な立場や役割の中で、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

【参考：中央教育審議会（平成23年1月答申）】※1

キャリア教育で育成する資質・能力が「基礎的・汎用的能力」だと説明すると、その他の様々な能力論と混同してしまい、「あれもこれも育成しなければならない」という負担感につながりかねません。ここでは、それぞれの言葉を整理したいと思います。

【そもそも「資質・能力」とは？】

「資質・能力」とは英語の「competency（コンピテンシー）」に対応し、直訳すると「有能さ」という意味になります。人生の中で出会うさまざまな問題場面を適切に解決していくには、知識の所有だけではまったく不十分で、さらに思考力や判断力、意欲や感情の自己調整能力、コミュニケーションや対人関係の能力が不可欠になってきます。

平成29年版学習指導要領では、これらを総称して「資質・能力」と呼んでいます。

【参考：奈須正裕「時代の学びを創る知恵とワザ」】

【これまで育成を目指してきた「生きる力」はどうなるの？】

「生きる力」とは、変化の激しいこれからの社会を生きていくために必要な力の総称であると位置付けられています。また、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」のバランスのとれた力とされてきました。それらの「生きる力」の理念を引き継いだうえで、今後も「生きる力」の育成を目指しますが、現在とこれからの社会を見据え、改めて「生きる力」を捉え直し、より具体化し、それがどのような資質・能力を育むことを目指しているのかを明確にする必要があるとされています。

【参考：平成20年版学習指導要領、中央教育審議会（平成8年7月答申※2、平成28年12月答申※3）】

【島根県の子どもたちに身に付けさせたい資質・能力とは？】

令和2年3月に策定した「しまね教育魅力化ビジョン」に、島根県の子どもたち一人一人がこれからの社会で生きていくために、「育成したい人間像」と「育成したい力」を示しています。このハンドブックの巻末（P20）に掲載しておりますので、確認してください。

【参考：しまね教育魅力化ビジョン（令和2年3月）】

【学校で目指すものは「学校教育目標」もあるのですが・・・】

学校教育目標とは、法令及び学習指導要領や教育委員会の方針等を受け止めつつ、各学校が設定するものです。子どもや地域の実情等を踏まえて、「生きる力」をどのような資質・能力として子どもたちに育成するのが具体化されたものとなります。

【参考：中央教育審議会（平成28年12月答申）】※3

【「基礎的・汎用的能力」は4つ全てを子どもたちに身に付けるのですか？】

基礎的・汎用的能力は、どのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子どもたちの発達の段階によって異なり、重点化・具体化して設定することが推奨されています。

【参考：中央教育審議会（平成23年1月答申）】※1

【「資質・能力の三つの柱」という言葉も聞くのですが・・・】

子どもたちがこれからの社会を生きていくために必要な資質・能力には、さまざまなものが考えられますが、それらを教育課程全体で育成するためには、全ての資質・能力に共通し、それらを高めていくために重要な要素を、教科等や直面する課題の分野を越えた枠組みとして整理する必要があります。そのため、全ての資質・能力に共通する要素として、以下の三つの柱として整理したものが、「資質・能力の三つの柱」です。

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

【参考：中央教育審議会（平成28年12月答申）】※3

※1 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月）

※2 中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（平成8年7月）

※3 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月）

2 | キャリア教育で育成する資質・能力（基礎的・汎用的能力）と、「生きる力」、学校教育

教育の目的・目標

教育基本法（第一条 教育の目的・第二条 教育の目標）

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない

生きる力

現代的な意義を踏

これからの時代に必要な資質・能力

一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする

【出典：平成29年告示 小学校学習指導要領 ※（ ）内は中学校・高等学校】

学校教育目標（育成を目指す資質・能力）

各校の「育成を目指す資質

多様な他者の考えや立場を理解し、自分の考えを正確に伝える力

自分の可能性を

「基礎的・汎用的能力」

人間関係形成・社会形成能力

自己理

ある単元における

「資質・能力の三つの柱」例

【参考：中学校学習指導要領（平成29年告示）】

国語科「読むこと・書くこと」

知・技

事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにすること

思・判・表

相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること

学びに向かう力

言葉がもつ価値に気付くとともに、思いや考えを伝え合おうとすること

社会科（公民的分野）「私たちと現代社会」

知・技

諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けること

思・判・表

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付け、議論すること

学びに向かう力

現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとすること

保健体育科（体育分野）「球技」

知・技

その運動の技術、体力の高め全な行い方について理解する

思・判・表

自己やチームの課題の合理解決に向けて、自己や仲間の考えを他者に伝えること

学びに向かう力

フェアなプレイを大切にしようとするこ互いに助け合い教えようとするこ

※ここに示した、ある単元における「資質・能力の三つの柱」例は、各教科等の学習が学校教育目標として設定した「育成を目指す資質・能力」や「基礎的・汎用的能力」につながり、ひいては「生きる力」の育成や教育基本法で定められている「教育の目的」や「教育の目標」につながっているということをイメージしていただくために作成したものです。したがって、「人間関係形成・社会形成能力」の育成につながる教科等は国語科と社会科に限られるわけではありませんし、技術・家庭科（家庭分野）が「課題対応能力」だけではなく、「人間関係形成・社会形成能力」や「自己理解・自己管理能力」の育成につながることももちろん考えられます。あくまでも一例と考えてください。

育目標」、「資質・能力の三つの柱」との関係性と例

方針決定の視点

子どもたちが生きていくこれからの時代に必要な資質・能力とはどのような資質・能力なのかを明確にしたうえで、子どもや学校、地域の実態に応じて、本校としてはどのような資質・能力として育成を目指すのか、学校教育目標に表そう。

そして、先生方には、それらの資質・能力を各教科等でどのように育成するのか、それぞれの専門性をいかして考えてもらおう。



まえて具体化

島根県の「育成したい人間像」

「自ら課題や展望を見だし、粘り強く挑戦し学ぶ人」

「人とかかわりやつながりを大切に、新たな社会を創造する人」

「自然や文化を愛し、自他を共に大切にする優しく強い人」

【出典：しまね教育魅力化ビジョン】



子どもの実態

学校や地域の実態

・能力」として具体化

理解し、主体的に行動する力

課題を発見・分析し、比較・検討して解決する力

の視点で見ると

解・自己管理能力

課題対応能力

方、安 こと	特別活動「学級活動（２）」	知・技	技術・家庭科（家庭分野） 「家族・家庭生活」	知・技	数学科 「データの活用」	知・技
		自己の生活上の課題について、意思決定を行い改善していくための知識を身に付けること		家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的な技能を身に付けること		コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理すること
		自己の生活の課題について、多様な意見をもとに自ら意思決定をすることができること		生活の中の問題から課題を設定し、その解決に向けて、計画を立てて実践できること		目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータを批判的に考察し判断すること
的な えた		学 びに向かう力		学 びに向かう力		学 びに向かう力
		将来にわたって自他の健康で安全な生活づくりに配慮しようとする		家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、工夫し創造しようとする		問題解決の過程を振り返って検討し、多面的に捉え考えようとする
よう 合お						

授業構想の視点

この授業やこの単元でねらう「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」つて、「基礎的・汎用的能力」のあの力や、学校教育目標のあの力につながってるな。

そのことを子どもたちに実感させるためには、地域の教育資源を使った方がよさそうだな。



3 「資質・能力」の育成を目指したキャリア教育のポイント

平成29年版学習指導要領では、子どもたちが社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、次のようにポイントを示しています。

児童（生徒）が、①学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、②特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

【出典：平成29年告示 小学校学習指導要領 ※（ ）内は中学校・高等学校】

①「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら」→学びを将来や社会につなぐ！

子どもたちが社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力を育んでいくためには、各教科等での学びが、一人一人の将来や社会にどのようにつながっているのかを見据えながら、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義について、資質・能力を視点として明確にすることが必要になります。

例：中学校 社会科 歴史分野「第二次世界大戦と人類への惨禍」

【その単元における「思考力・判断力・表現力等」の目標例】

「経済の世界的な混乱について課題を整理し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断する力を育成する」

【授業のめあて例】

「世界恐慌の乗り越え方について、それぞれの政策が誰にとって有効なのか考えよう」

例えば、歴史的事象として「ブロック経済」を取り上げ、保護貿易について調べることを通して、さまざまな立場にたって、そのメリット・デメリットを考えさせる。さらに、現在の自由貿易のあり方をめぐる問題（自国第一主義など）を取り上げ、当時との相違点を想起させる。そこで、歴史を学ぶということは、過去に起こったことを覚えることではなく、物事の概念や構造を学び、これからのよりよい社会の形成に役立てるためだということに気付かせる。



「多様な他者の考えや立場を理解し、自分の考えを正確に伝える力」の育成

この単元で学んだ、複数の立場や意見を踏まえて公正に判断することは、当時だけの話ではなく、これからの時代にも応用できることだな。歴史を学ぶっていうのは、自分の将来に役立つんだな。

②「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて」→特別活動を要に、教育活動全体で取り組む！

これまでもキャリア教育は学校教育全体で取り組むとされてきましたが、その意図が十分に理解されず、指導場面が曖昧ではないかという指摘もありました。

こうした指摘を踏まえて平成29年版学習指導要領では、特別活動の学級活動及びホームルーム活動の内容に「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」を設け、特別活動をキャリア教育の要としました。総合的な学習（探究）の時間や学校行事、道徳科や各教科の特質に応じたキャリア教育に取り組んだうえで、学校の教育活動全体を振り返る機会を設け、資質・能力を視点に自己の成長を実感するとともに、将来への見通しをもつことが重要です。

例：中学校 学級活動「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」

【授業のめあて例】

「今年度の学習を振り返り、人々と協働していくためにはどんな力が必要か考えよう」

総合的な学習の時間「職場体験」

保健体育「球技」

道徳科「思いやり、感謝」

社会科「歴史分野」

学校行事「体育祭」



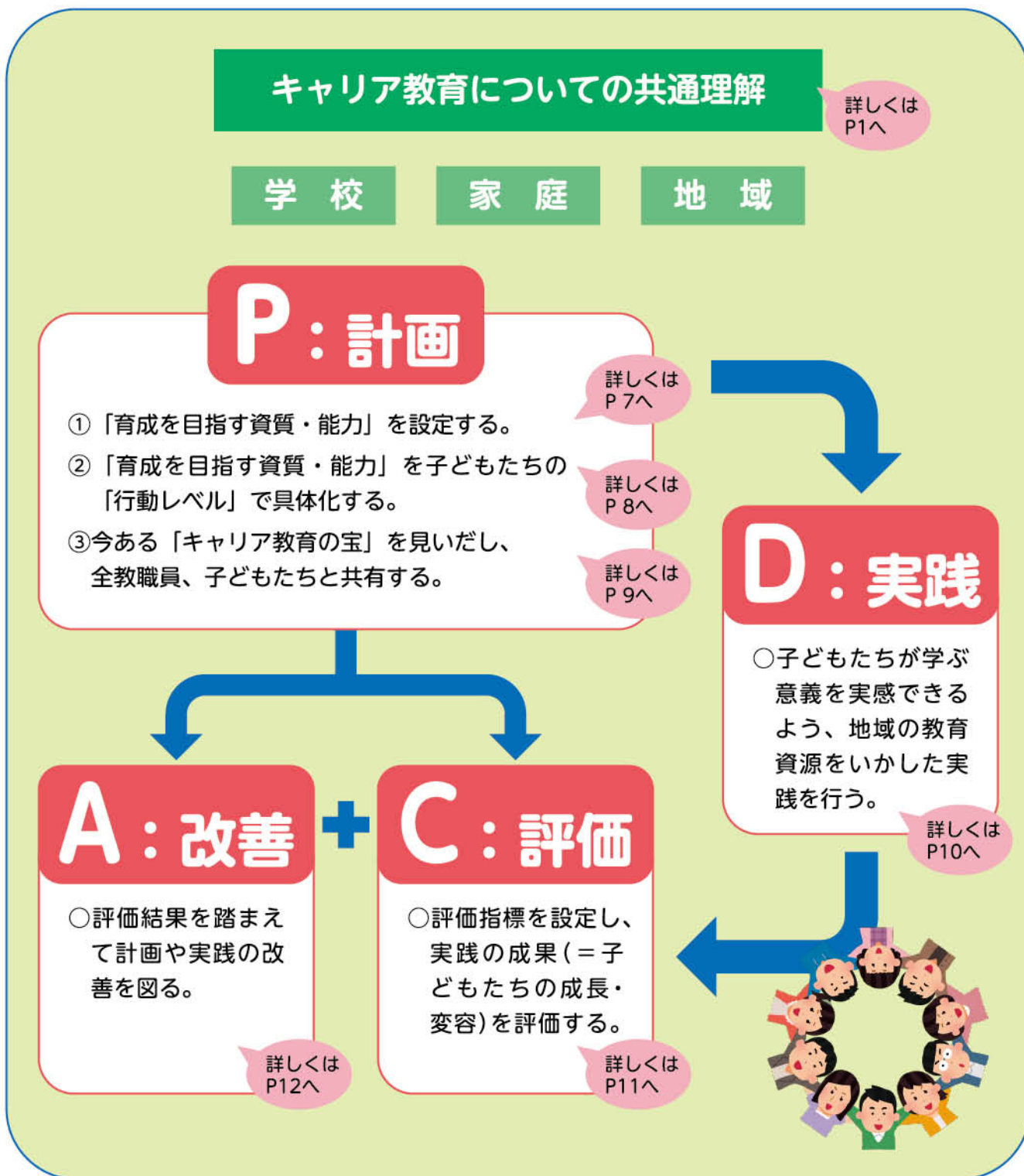
「多様な他者の考えや立場を理解し、自分の考えを正確に伝える力」の育成

いろいろな活動で人と協働することを学んだな。共通して大切だったのは、「相手の立場に立って考えること」だったな。そうか、人々と協働するには「相手の立場に立って考えることができる力」が必要なんだな。

2 キャリア教育を進める手順

キャリア教育を進める手順を下図で表しました。このハンドブックは、先生方に各地域・各校のこれまでの取組をいかしながら、これからの時代に求められるキャリア教育に向けて、各校の取組を整理していただくことを目的としています。

各地域・各校では、キャリア教育についての共通理解を図っていただいたうえで、このハンドブックを参考に「P：計画」し、学校・家庭・地域が協働した「D：実践」を進めていただきたいと思います。新年度に向けての「P：計画」の時には、現状の「C：評価」、「A：改善」を踏まえて一体的に計画することが大切です。



P: 計画

① 「育成を目指す資質・能力」を設定する

キャリア教育を効果的に進めるためには、教職員はもちろん保護者や地域の方々も納得できる「育成を目指す資質・能力」を設定することが大切です。そのためには、一部の関係者（管理職・教職員等）だけではなく、その地域・学校の子どもたちの成長に関わる多くの人が、十分にコミュニケーションをとって課題意識を共有したうえで、「育成を目指す資質・能力」を一緒に作成するプロセスが大切です。

実践事例

1

飯南町

保育所・小学校・中学校・高等学校が「育成を目指す資質・能力」を協働して設定することで、方向性を共有する

飯南町では保育所から高等学校までの先生方が一堂に会して研修し、キャリア教育について共通理解を図った後、保育所から高等学校までの一貫した「育てたい資質・能力」を設定されました。先生方からは、これまで子どもたちがどんな学びをしてきたのかを理解し、そしてこれから子どもたちがどのように育っていくのかをイメージすることにつながったという声がありました。

飯南町で
育てたい
資質・能力



主体性



課題発見力



計画力



創造力



巻き込む力



実行力



発信力



令和元年7月31日の保・小・中・高合同研修会の様子。キャリア教育について同じ目線で推進していくきっかけとなった。

「育成を目指す資質・能力」設定のプロセス例

1 全体で共通理解を図る

何のために「育成を目指す資質・能力」を設定するのか、その意義や目的について参加者全員が共通理解をもてるようにする。（島根県教育センターの出前講座なども活用できます。）

2 グループワークで意見交換

- ①子どもの現状について
- ②これからの社会に必要な資質・能力について
- ③この地域・この学校の子どもたちに必要な資質・能力について

3 全体でまとめる

各グループでまとめた「育成を目指す資質・能力」を発表し合い、全体として一つにまとめる。

P:計画

②「育成を目指す資質・能力」を子どもたちの「行動レベル」で具体化する

P7のように、市町村や校区単位で「育成を目指す資質・能力」を設定する際には「主体性」や「課題発見力」といった抽象度の高いものになることが考えられます。抽象度の高い目標は、関係者同士で共有化できる「スローガン」としては有効ですが、子どもたちや先生方が日々の目標としたり、取組を評価したりするには曖昧になります。目の前にいる子どもたちを、どのようなことができるようになった状態で、進級や卒業させたいのかを明確にするため、「育成を目指す資質・能力」は子どもたちの「行動レベル」で具体化することが大切です。

実践事例

2

浜田市立原井小学校

年度当初に「育成を目指す資質・能力」を具体化する校内研修を実施

浜田市立原井小学校では、年度当初に校内研修を実施し、設定した「育成したい資質・能力」について、子どもたちの「行動レベル」で具体化しました。このことにより、具体的な目標を設定できただけでなく、設定する際に昨年度までの子どもたちの実態を共有することによって、新たに赴任された先生の子ども理解が高まったり、新しい学年部の方針を確認できたりする効果があったようです。

【2年生の例】

学校全体の付けてほしい力	学校全体の付けてほしい力の具体	見出し	2年生の付けてほしい力
物事の中から課題を見付け、発言や文章によって伝える力	学習や生活において、解決すべき課題を見付け、伝える	気	あれっと思うことに気付き、伝える
互いの考えを伝え合い、共通点や相違点を見付けながら論理的に考える力	自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく伝える	考	自分の考えや気持ちを伝える
	話をしている人の考えや気持ちの根拠がわかる		話をしている人の気持ちをわかろうとする
解決したい課題に協力して粘り強く取り組み、振り返りを通して、価値付けをしたり、新たな課題を見付けたりする力	話し合いながら、同じところや違うところを比べて考え、よりよい解決方法を見付ける	創	話し合いながら、よりよい解決方法を見付ける
	解決したい課題に協力して粘り強く取り組む		解決したい課題に一生懸命取り組む
	振り返りを通して、できるようになったことやこれからの課題を見付ける		振り返りを通して、自分や友達のよさに気付き、もっと頑張りたいことを見付ける

「育成を目指す資質・能力」を子どもたちの「行動レベル」で設定する際のポイント

1 子どもの姿として「〇〇できる」という表現で設定する

例「相手の話を最後まで聴くことができる」

このように、子どもの姿として具体的になっていると、目標として意識しやすいですし、後から振り返った時に、その力が身に付いたのかどうか評価しやすくなります。

2 ダブルミーニング・ダブルバーレルを防ぐ

設定した目標を、そのまま活用した成果指標として評価することが有効です(P11)。その際、以下のような目標設定をしてしまうと、複数の内容が混在し、評価が曖昧になってしまいます。

ダブルミーニング・・・多様な解釈が可能な言葉 (例)「あかるい心をもつ子ども」

ダブルバーレル・・・一つの質問の中で、複数の内容を問うこと (例)「〇〇をもち、〇〇が理解でき、仲間と協働しながら、〇〇するとともに、〇〇ができる」

P: 計画

③今ある「キャリア教育の宝」を見出し、全教職員、子どもたちと共有する。

全ての教育活動を通じたキャリア教育の実践において重要なことは、それぞれの教育活動の中にすでにあるキャリア教育の要素、つまり「キャリア教育の宝」を見いだすことです。各教科等におけるキャリア教育とは、本来の教科指導の時間を削ったり、教科の目的に付け加えたりして何か新しいことに取り組まなければならないものではありません。

例えばある学校の「育成を目指す資質・能力」が「多様な他者の考えや立場を理解し、自分の考えを正確に伝える力」だった場合、国語科の「話すこと・聞くこと」における「相手の発言を注意して聞くこと」や「相手の立場や考えを尊重すること」、保健体育科の球技における「仲間と連携しゲームが展開できるようにすること」など、「育成を目指す資質・能力」に関わる「キャリア教育の宝」は、今すでにある教育活動の中にたくさんあります。

しかし、子どもたちだけでそれらをつなぎ合わせ、全体を見通すことは難しいことです。したがって教職員がどの教育活動が、どのような資質・能力の育成につながるのかを年間指導計画として見える化させる必要があります。

今ある「キャリア教育の宝」を見だし、全教職員、子どもたちと共有することで、「これは、この前の〇〇の時間でやったことと同じだね」「△△の時間で◇◇先生からこんな話を聞いたよね。今日学んだことと、△△の時間にやったこととの共通点に気付いたかな?」といった言葉で、子どもたちの気付きを促すことができるでしょう。

実践事例

3

浜田市立原井小学校

設定した「育成を目指す資質・能力」に見える化し、全教職員で共有

浜田市立原井小学校では、既に作成していた道徳教育全体計画別葉をもとに「育成を目指す資質・能力」を視点とした年間計画を作成しました。どの取組で、どの資質・能力の育成につながるのかに見える化したことで、教職員全員で学びのつながりを実感することができました。

【2年生の例】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学級活動	学級目標を考えよう 気 考 創	目指す自分像を考えよう 気 考 創	お楽しみ会をやろう 創	1学期の振り返り 気 考 創		当番、係を決めよう 考			2学期の振り返り 気 考 創	わたしの誕生 気 考 創	できるように なったこと発表会 気 考 創	1年の振り返り 気 考 創
学校行事						大運動会 考	楽しい遠足 創	学習発表会 気 考 創				卒業式
児童会活動	1年生を迎える会 気 考 創		人権週間 気						人権集会 気 考		人権週間 気 考	6年生を送る会 創
道徳科	あおいはりっぱな2年生 考		ポケット2つ 考				ぐみの木と小鳥 考	自分が決めたことだから 創		かめたのなみだ 考	小さな力の つみかさね 創	
教科	生 1年生をむかえよう 気 考 創 休 小体育会 気 考 創		生 習字パーティー 気 考 創			生 どきどきわくわく助たんけん 気 考 創 算 九九をつくろう 気 考 創		国 わかし話を読もう 気 考 創		生 あしたへジャンプ 気 考 創 国 おもちや数盤をひらこう 考 創		

□ ……ふりかえりカードに書く

※P8の表と連動しています

D: 実践

子どもたちが学ぶ意義を実感できるよう、地域の教育資源をいかした実践を行う。

子どもたちが、社会に出てから必要な資質・能力を身に付けるためには、学校で学んでいることが社会とつながっていることを実感しながら学ぶ必要があります。普段生活している地域は、もっとも身近な社会です。地域の教育資源を活用することで、学校で身に付ける力が社会で必要とされる力につながっていることを子どもたちは実感します。

島根県ではこれまでも、小中学校における「ふるさと教育」や高等学校における「地域課題解決型学習」に取り組んできました。今後も、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）や高校魅力化コンソーシアム等を活用して、豊かな地域の教育資源をいかした実践に取り組みましょう。

実践事例

4

島根県立矢上高等学校

地域の教育資源をいかした「総合的な探究の時間」。そして、その学びを各教科等につなげる。

矢上高校では、教職員で話し合い、教科同士のつながりのある内容が見えてきました。その共通する内容を「総合的な探究の時間」（以下「総探」）で学ぶ際に、地域の教育資源を活用し、学校での学びが社会とつながるように工夫しました。その後、それぞれの教科等の特質に応じて内容を深めていきました。

「労働と福祉に関する学びって、様々な教科で学ぶ機会があるよね！」



その共通する内容を「総合的な探究の時間」で学ぶ

「現代版『アリとキリギリス』のロールプレイを通して労働問題と社会の関係を考える」

配役カード



「よりよい社会を形成する力」の育成

4つのキャラクター

A アリ	過労死、ブラック企業（パワハラ等）
B アリ	非正規雇用、ホームレス
C キリギリス	障がい者雇用、高齢者の労働問題
D キリギリス	8050問題、孤立死、社会的引きこもり

労働に関わる社会問題について、邑南町社会福祉協議会から招いたゲストティーチャーに解説していただきました。引きこもりは若者だけの問題ではなく、高齢者にも見られる問題であることや、「生きづらさ」を感じる人たちはどのような特徴があるのか等について、実際に地域の社会問題に対峙しておられる方から話を聞くことで、生徒は社会問題を自分事として考えることができました。



公民

「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の中で深めていこう



家庭

「人の一生と家族・家庭及び福祉」の中で深めていこう



保健

「労働と健康」や「様々な保健活動や社会対策」の中で深めていこう



HR

「一人一人のキャリア形成と自己実現」の「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」の中で深めていこう

最初は、つながりのある内容は同時期に実施することも考えられましたが、そうすると他の内容の実施時期もずれて負担が大きいため、総探で扱った内容を把握しておき、それぞれの教科等で教員が生徒に「これ総探でも同じようなことやらなかった？」と問いかけることで学びをつないでいきました。そうすることにより、地域素材を活用した総探での学びを、各教科等の知識の習得や思考力の育成にいかすことができました。そして、教科等を横断して「よりよい社会を形成する力」の育成に結びつけています。

C: 評価

評価指標を設定し、実践の成果 (=子どもたちの成長・変容) を評価する。

キャリア教育の実践の成果を適切に評価することは、子どもたちの成長を見取るとともに、次の計画の改善にいかし、実践の質の向上を図るために重要です。

ここでは、評価指標を設定し、実践の成果(=子どもたちの成長・変容)を評価する際のポイントを紹介します。

ポイント

1

成果指標を子どもたちの「行動レベル」で設定する

子どもたちが実践を自己評価するための評価指標が「自己管理能力を育成することができましたか？」という抽象度の高いものでは、達成できたか否かを判断することは難しいでしょう。したがって、例えば「あなたは、不得意なことであっても、必要なことは自ら進んで取り組むことができますか？」といったように「行動レベル」の視点で指標を設定することが大切です。

しかしこれは、そもそも目標設定の段階で、目標が子どもたちの「行動レベル」で設定されていれば、とても簡単にできます。評価指標の設定は、目標設定の段階から始まっているのです。

【目標】

不得意なことであっても、必要なことは自ら進んで取り組むことができる



「行動レベル」の視点で目標設定がしてあれば、主語や文末用言を調整することによって評価指標となる。

【成果指標】

あなたは、不得意なことであっても、それが必要である場合には自ら進んで、取り組んでいますか。

主語を「あなたのお子さんは～」とすれば保護者アンケート、「あなたの学級の生徒は～」とすれば学級経営の自己評価指標となる。

ポイント

2

「今、手元にある情報」を有効に活用し、子どもたちの 成長・変容を把握する

キャリア教育の実践の評価について、「ポイント1」のようなアンケート形式が唯一の方法ではありません。「今、手元にある情報」を有効に活用することが重要です。例えば、既に各校で取り組まれている学校評価や、小中学校における「全国学力・学習状況調査」や、高等学校における「高校魅力化アンケート」などの情報によって、昨年度と今年度の比較を通して子どもたちの成長・変容を確認することができます。また、次章で述べる「キャリア・パスポート」も子どもたちの成長・変容を評価するうえでの有効な資料となります。特に、学年を越えて継続的に蓄積された「キャリア・パスポート」を振り返ることを通して、子どもたち自身が自らの成長・変容を実感し得る機会となりますし、先生方にとっても子どもたち一人一人の成長の過程を把握するための貴重な資料となるでしょう。

A: 改善

評価結果を踏まえて計画や実践の改善を図る。

各校のキャリア教育を「無理なく」高めていくためには、年度当初に設定した目標の達成度（評価）を踏まえ、実践方策を再検討する「A: 改善」が重要です。その際、当初設定した「育成を目指す資質・能力」について、子どもたちの成長が十分になされなかった点に焦点を絞り、その原因について十分な意見交換をするようにしましょう。往々にして実践の更なる強化・充実にばかり目が向きがちですが、高度に設定しすぎた目標の再調整が必要なケースも少なくありません。また、目標達成の方策を探るあまり、先生方の疲労感や抵抗感ばかりを募らせる結果に陥る場合もあります。できるだけ広い視野から、「次なる一手」を考えることが大切です。例えば、保護者の皆さんや地域の方々に協力を得ることにより目標が達成されたケースも多くあります。

ここでは、評価結果を踏まえて計画や実践の改善を図る際のポイントを紹介します。

ポイント 1

組織の視点から：実践を継続的に進められる体制をつくる

- 全教職員で、「育成を目指す資質・能力」を共有したか？
- 各取組が、学級・ホームルームや学年を越えて、相互に関連付けられているか？
- 取組を進めるうえで、各教職員に求める負担が過剰になっていないか？

ポイント 2

指導計画の視点から：目標、計画、実践の一貫性を確認する

- 「育成を目指す資質・能力」と各教科等の学習との関連が指導計画内に具体的に示されているか？
- 目標について、検証可能な目標を設定しているか？

ポイント 3

連携の視点から：キャリア教育の充実につながる関係をつくる

- キャリア教育のねらいや「育成を目指す資質・能力」などを関係者と共有しているか？
- 体験活動等に対する地域・保護者の理解と協力が得られているか？
- 地域組織や企業・事業所との連携を図っているか？

【参考：文部科学省「子供たちの『見取り』と教育活動の『点検』」平成27年3月】

3 「キャリア・パスポート」について

目的・定義

「キャリア・パスポート」は、ここまで説明してきたキャリア教育を効果的に推進するためのツールです。したがって、「キャリア・パスポート」の目的はキャリア教育の目的と同じであり、「キャリア・パスポート」とは次のように捉えることができます。

児童生徒が、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、学びを将来や社会につなぐためのツール

文部科学省『「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項』における「キャリア・パスポート」の目的と定義

【目的】

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐもの。

教師にとっては、その記述をもとに対話的にかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

【定義】

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成にいかそうとする態度を養うよう努めなければならない。

学習指導要領上の取扱い

「キャリア・パスポート」は、その取扱いについて学習指導要領に明記された教材です。

指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等**を活用すること。**

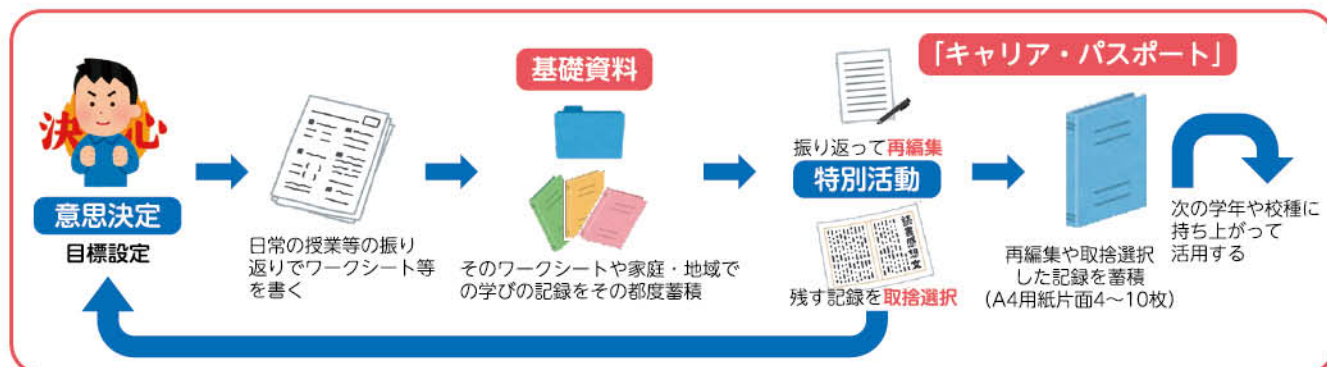
【出典：平成29年告示 小学校学習指導要領 第5章特別活動 第2（学級活動） 3内容の取扱い】

※高等学校は ホームルーム活動（3）内容の取扱い

※中学校、高等学校は「児童」のところが「生徒」にかわり、高等学校は「生き方」の前に「在り方」が加わる。

「キャリア・パスポート」に記録を蓄積する過程

「キャリア・パスポート」は、学級活動・ホームルーム活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」において活用する教材ですので、実践や他教科等での基礎資料をもとに、振り返って再編集したり、取捨選択したりし、これからの生活に向けて意思決定するという過程が重要です。



蓄積する記録

- 「キャリア・パスポート」を次の学年や校種に引き継ぎ、有効な振り返りに活用できるようにすることを重視することから、膨大な資料となることを防ぐため、各学年A4用紙片面4～10枚をクリアノート型ファイルに蓄積します。
- 蓄積する記録は、以下の要素を含みます。

A

一定期間の「基礎資料」を基に、各学校の「育てたい資質・能力」等の汎用的な力を視点に振り返り、再編集した記録

B

「今、夢中になっていること」や「将来の夢」等、その時々の方自分について記した記録

C

家庭や地域での学びの記録も含めて、児童生徒自身が是非これは残しておきたいと思った記録

記録の引き継ぎ

【学年間の引き継ぎ】

学年間の引き継ぎは、原則教師間で行います



次年度担任へ

【校種間の引き継ぎ】

校種間の引き継ぎは、原則児童生徒を通じて行います



新入生

進学先

【このページの詳細は島根県教育委員会webサイト「EIOS(エイオス)」に掲載しております『「キャリア・パスポート」の作成および活用の手引き」をご覧ください。】

キャリア教育に関わる記録を蓄積する過程の実践例 【小学校編】

益田市立吉田南小学校（4年生）

【年度当初・学期始め】

学校が設定した「付けたい力」を参考にしつつも、児童一人一人が自分で「付けたい力」の具体を考えて記入しました。目標設定の時に、児童が納得感をもって目標を設定することが大切です。そのために、「これは、全部の教科や行事で伸ばしていくんだよ」、「この力は大人になってからも大切な力なんだよ」など、教師が丁寧に説明するようにしましょう。

この例のように自分の言葉で目標設定することで、児童にとっては「与えられた目標」ではなく「自分の目標」として、「この目標に向かってがんばろう」という意欲を高めることができます。

【実践】（基礎資料）

発達の段階にもよりますが、全ての行事で全ての「付けたい力」を目指すことが難しい場合は、数を絞ることも考えられます。「付けたい力」は同じでも、その具体的な姿を活動毎に設定すると、その活動にあった目標になりやすいです。

行事当日の振り返りだけでなく、日々の活動も振り返ると、児童は目標を意識しながら活動するので、気づきを深めることができます。

【学期末・年度末】

学期末や年度末に、その期間で蓄積した基礎資料を振り返りながら、目標に対して、その力が伸びたエピソードや、その力について発見したことを記入します。

児童は、たくさんの基礎資料を振り返ることで、一つ一つの活動での成長は小さくても、それらが集まれば大きな成長となることを感じるでしょう。また、年間を通して同じ視点で振り返ることで、自分の変容も感じやすくなるでしょう。

吉田南小学校では、「キャリア・パスポート」に蓄積する再編集シートは色つきの紙、基礎資料のシートは色なしの紙と区別することで、児童が「キャリア・パスポート」に蓄積する記録ということが分かりやすくなるように工夫していました。

基礎資料を基に学びを振り返り、再編集する実践例 【中学校編】

浜田市立第一中学校（2年生）

2学期の生活をふり返ってみよう

2年 名前

学校教育目標	知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成 —自主・連帯・創造—
2年生で 目指す姿	自主 見通しをもって計画的に行動する生徒 連帯 目標を達成するために他の人と協力する生徒

2学期はこんなことや達成が心に残っている・私を成長させた！

① 目標する生徒像にどれだけ近づけたか、頑張ったことや挑戦したこと、努力を続けていることを具体的に書いてみよう。また、2学期で見つけた自分の良いところがあれば書いてみよう。

② 2学期の終わりの学級活動において、基礎資料をもとに「自主」と「連帯」という資質・能力を視点に振り返りました。

③ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

④ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑤ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑥ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑦ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑧ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑨ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑩ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑪ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑫ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑬ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑭ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑮ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑯ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑰ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑱ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑲ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

⑳ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉑ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉒ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉓ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉔ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉕ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉖ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉗ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉘ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉙ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉚ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉛ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉜ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉝ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉞ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㉟ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㊱ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㊲ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㊳ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

㊴ 3学期に向けて、やりたい自分になるために、何を頑張りますか。具体的に書いてみよう。

育成を目指す資質・能力を「2年生で目指す姿」として示し、様々な活動で、共通した目標に向かって実践しました。各記録を基礎資料として蓄積しました。

2学期の終わりの学級活動において、基礎資料をもとに「自主」と「連帯」という資質・能力を視点に振り返りました。

気づきをグループで伝え合い、自分以外のメンバーからの気づきも受け取りました。自分では気付いていなかったことを言ってもらい、うれしそうにしている生徒や、新たな自分を発見している生徒がたくさんいました。

最後に、2学期の振り返りをもとに、3学期の目標を設定し、意思決定をして授業を終えました。

担任や保護者から、子どもの気づきを認めもらえるようなコメントをもらうことで、子どもの気づきをさらに深めることができます。

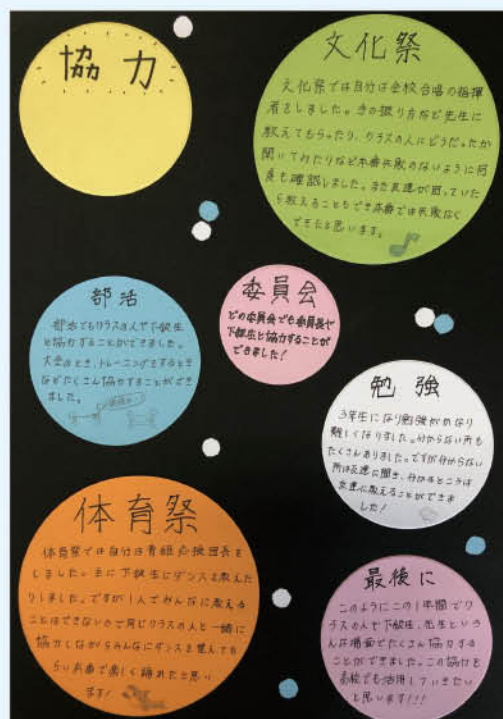
雲南市立掛合中学校（3年生）

蓄積してきた基礎資料をもとに、1年間の学びを振り返り、まとめた記録を活用して、クラスで「学びの発表会」を実施しました。

この生徒は「協力」をテーマに行事や部活、委員会、勉強について振り返っています。共通の視点で振り返ることによって、それぞれの活動のつながりを感じることができ、また、「協力」についての考えを深めることができます。

また、その「協力」を視点に高校生活についても考えることで、中学校で伸ばした力を高校でどのように活用していこうかといったように、学びを自分の将来にもつなげている様子を見取ることができます。

資質・能力を「目標」とすると、どうしても達成したかどうか目にいきますが、「テーマ」とすることで、その資質・能力について探究しようという意識が高まり、深く考えることができるというメリットもあります。



17 つなぐ キャリア教育ハンドブック

島根県立浜田高等学校

- 
- A group of students in a classroom are sitting on the floor in a large circle, facing each other. They are holding and reading books. The room has a polished wooden floor and a white wall in the background.

進路実現に向けた計画的な振り返りが大切



8. 3
7. 3年
6. 学園祭～
5. PBL地域探

8. 3年入試直前期
7. 3年0学期
6. 学園祭～進路希望
5. PBL地域探究

[illegible]

A student with dark hair, wearing a dark blue school uniform with white stripes on the sleeves, is sitting at a desk and writing in a white notebook. The student is viewed from the side and back. The background shows a wooden floor and a yellow chair.

-

子どもの実態に応じて創意工夫した取組の実践例 特別支援学校事例

島根県立松江ろう学校（高等部3年生）



12月中旬のホームルーム活動で、2学期の学びを振り返りました。基礎資料の他、自立活動の時間で作成した「2学期振り返りムービー」を観ることで、生徒が振り返りやすいように工夫していました。

生徒は、学習したことを短い単語で書いていました。しかし、担任は、生徒本人が、その行為の理由や、そこから何を学んだのかなど、たくさんの思いをもっていると感じたので、生徒の記述をもとに質問して、本人の思いを引き出し、メモをしていました。そのメモを生徒の記録と一緒に「キャリア・パスポート」に蓄積しておくことで、生徒が後で振り返った時に、学んだことを鮮明に思い出すことができるでしょう。

○各項目の振り返りと、今後、挑戦・行動しようと思うこと

学習面で 高学年、月読レ	今後は 意見を書きこむ
生活面で 生徒会(選挙活動)	今後は 生徒会協力行事や準備活動
家庭や地域で 遅くまでコンピュータをやる	今後は 出かける前に準備を済ませる
その他(習い事・資格取得など)で 情報系取得したい	今後は 情報系取得できるように準備
今学期を振り返って、新しく発見したこと、気付いたこと 部活が楽しくなる、エッセイ、読書、ライティング、リポート	

生徒が記入した記録

○各項目の振り返りと、今後、挑戦・行動しようと思うこと

学習面で 読書、月読レ	今後は 読書、月読レ
生活面で 生徒会(選挙活動)	今後は 生徒会協力行事や準備活動
家庭や地域で 遅くまでコンピュータをやる	今後は 出かける前に準備を済ませる
その他(習い事・資格取得など)で 情報系取得したい	今後は 情報系取得できるように準備
今学期を振り返って、新しく発見したこと、気付いたこと 部活が楽しくなる、エッセイ、読書、ライティング、リポート	

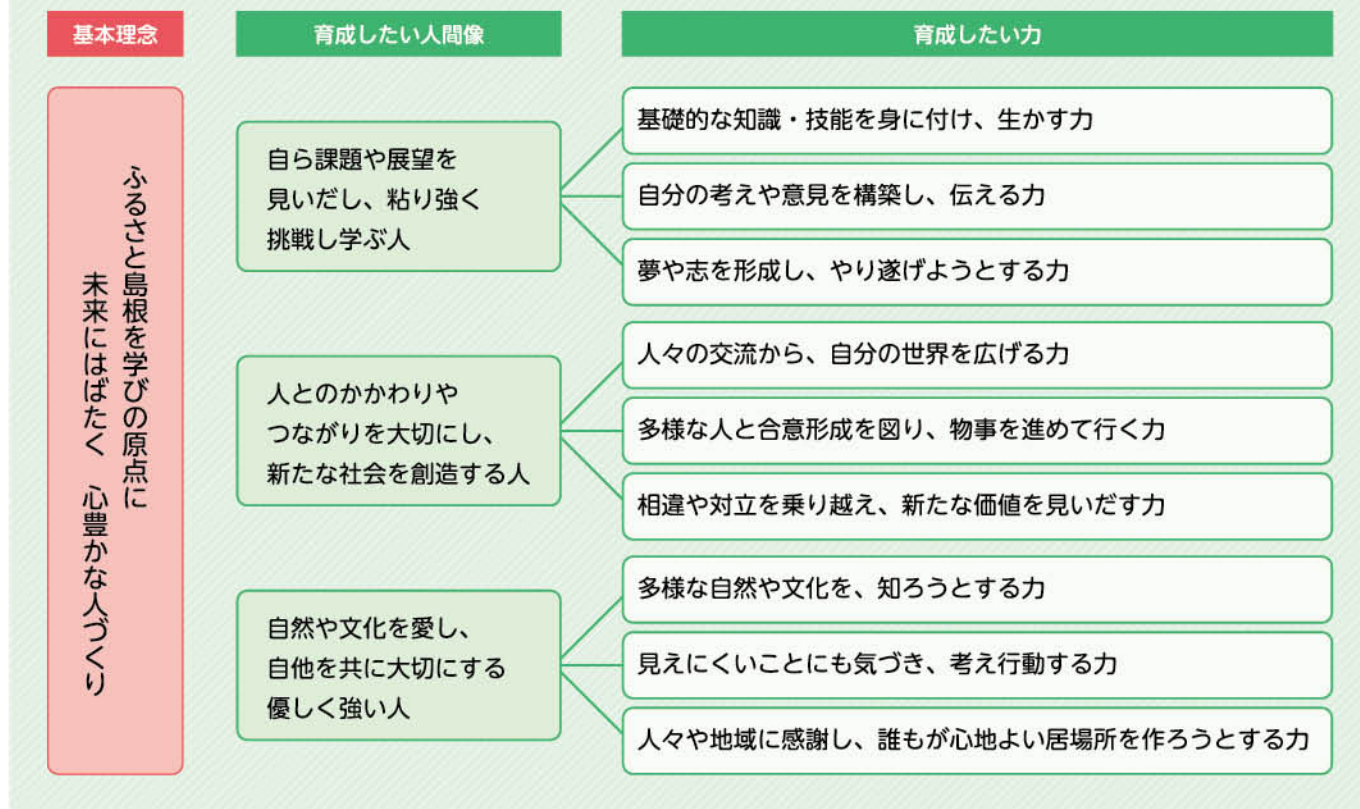
担任が生徒と対話しながら記入した記録

松江ろう学校では令和2年度から「キャリア・パスポート」に取り組むにあたり、文部科学省が示した高等学校版の例示資料を参考に取組まれました。その結果、「児童生徒の実態にあっていないので使いにくい」という声が多く聞かれました。そこで、学びの振り返りが容易にでき、学びが深めるようにするために改善を進められました。生徒を中心に据えて工夫されたこの取組は、素晴らしい実践例です。

例示資料はあくまで一般的なものですので、使いやすいように作りかえていただいてもまったく問題ありません。そして「児童生徒の実態に応じた学びの創出」はこれまでも特別支援学校の先生方が大切にしてこられたことであり、その知見は各先生方、各校に確実に蓄積されているはずです。

どうか、その特別支援学校の強みを「キャリア・パスポート」の取組にもいかしていただき、子どもたちの実態に応じて一人一人の学びを残していただければと思います。

「しまね教育魅力化ビジョン」における「基本理念」、「育成したい人間像」、「育成したい力」



引用・参考文献

- ・『キャリア教育基礎論-正しい理解と実践のために-』
藤田晃之、実業之日本社、2014年
- ・『キャリア教育フォービギナーズ「お花畑系キャリア教育」は言われるほど多いか?』
藤田晃之、実業之日本社、2019年
- ・『「資質・能力」と学びのメカニズム』
奈須正裕、東洋館出版社、2017年
- ・『次代の学びを創る知恵とワザ』
奈須正裕、ぎょうせい、2020年
- ・『子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」～キャリア教育を一步進める評価～』
文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター、2015年
- ・『キャリア教育の進め方サポートブック』
大阪府教育委員会、2012年
- ・『小学校だからこそ！キャリア教育！』
長田徹（監修）、世田谷区立尾山台小学校（編著）、実業之日本社、2019年
- ・『追究型学習のすすめ-「教わる」からの卒業』
小林一彦、実業之日本社、2021年

事例提供

- ・飯南町教育委員会
- ・雲南市教育委員会（雲南市立掛合中学校）
- ・浜田市教育委員会（浜田市立原井小学校、浜田市立第一中学校）
- ・益田市教育委員会（益田市立吉田南小学校）
- ・島根県立浜田高等学校
- ・島根県立松江ろう学校
- ・島根県立矢上高等学校
- ・島根県立古賀高等学校

学びを将来や社会につなぐ
キャリア教育ハンドブック

発行年月	令和3年8月
編集・発行	島根県教育庁教育指導課 〒690-8502 島根県松江市殿町1番地 電話 0852-22-6867
印刷	渡部印刷株式会社

島根県教育委員会
WEBサイト「EIOS(エイオス)」

